

## 四国横断自動車道 軟弱地盤対策技術検討委員会

### 議 事 概 要

1. 日時:令和2年12月22日(火) 14:00~14:50

2. 出席者:

徳島大学 准教授 上野 勝利

阿南工業高等専門学校 教授 吉村 洋

四国地方整備局 道路情報管理官 大西 良明(WEB) ※敬称略

3. 議事:

- ・第1回委員会でのご指摘回答
- ・STA. 202+30函渠における対策工法の概要
- ・周辺地域における函渠状況
- ・土砂採取跡地の土質、範囲確認の調査計画(案)

(事業者より説明)

○ 第1回委員会でのご指摘回答

(1)深い層の火山灰層は中位～硬い層で、ac2層は過圧密粘土で今後盛土による沈下の可能性はないと考えている。

(2)不同沈下構造物復元特殊工法(JOG工法)の採用に当たって、ボーリングマシンが鉄筋に接触したときに削孔が停止する機能がついており、鉄筋欠損等の影響はないと考えているが、鉄筋が密な箇所は、ウォータージェット削孔等の補助工法の併用も検討する。

○ JOG工法は、ボックス本体嵩上げの実績があり、NETISに登録されていた新技術である。

○ STA. 202+30函渠周辺にある施工済みの函渠においても沈下が見られ、概ね砂利採取跡地、旧河川敷に合致している。

○ 周辺地域の砂利採取跡の埋土の分布範囲、土性の確認、函渠沈下進行等の可能性を把握する目的で、物理探査、PDC調査、ボーリング調査、標準貫入試験、室内土質試験を行い、その結果と函渠の利用用途等を踏まえ、復元工法または路面高調整による対策を行っていく方針。

(各委員からの提案・意見)

- 施工済み函渠沈下状況から埋土の影響に加え深層の圧密沈下の再チェックを行うこと。
- JOG 工法の削孔については、慎重に行って欲しい。
- 埋土の分布範囲、土性の確認、沈下進行等の可能性を把握するための調査計画及び対策方針については概ね了承する。